

## ○第1回熊野川の総合的な治水対策協議会 議事要旨

開催日時：平成24年7月2日（月）11:00～12:40

開催場所：大阪合同庁舎第1号館 新館3階A会議室

出席者：近畿地方整備局河川部長、紀南河川国道事務所長、紀の川ダム統合管理事務所長、紀伊山地砂防事務所長

三重県県土整備部長、奈良県土木部長、和歌山県県土整備部長

天川村長、五條市長、十津川村長、田辺市長、新宮市長（代理）、熊野市長（代理）、紀宝町長（代理）、上北山村長、下北山村長、北山村長

関西電力(株)土木建築室長、電源開発(株)西日本支店長

議事要旨：

1) 設立趣旨、規約、公開方針

- ・事務局より資料－1について説明し、承認される。

2) 各機関の取り組み状況の報告、意見交換

(1) 国・三県合同対策会議について

- ・奈良県より資料－2について説明。

(2) ダムの運用の改善について

- ・電源開発(株)西日本支店、紀の川ダム統合管理事務所及び近畿地方整備局河川部より資料－3について説明。

→熊野川流域には管理者の異なる11の利水ダムがあるが、地域によって降雨状況が異なり、また、ダムの上流と下流では放流による対応が逆となることから、難しいとは思いますが、台風が来たときなど期間を限って統合的に管理を行うことを検討できないか。(北山村長)

→指摘のとおり難しい課題である。今回試行運用ということで案をつくったので、試行運用を行いその検証を行うなかで、考えていきたい。(事務局)

→市内に猿谷ダムがあるが、長い歴史の中でダムの運用について住民の不平不満があり、今回の水害を受けて、それが一度に噴出した。平成24年からの新たな取り組みや協議会の設立はありがたいが、ひとつひとつの課題について住民との対話の場を設けていただきたい。市としても参加させていただき、協力する。(五條市長)

→市の協力も得ながら住民の方との対話の場は引き続き持ちたい。巡視等日常業務の中でも住民の方と話をしよう職員に伝えている。(紀の川ダム統合管理事務所長)

→県内河川では今年度から関西電力の協力を得て洪水時の水位低下を行っている。熊野川でも運用改善として引き続き更に下げる努力を継続して欲しい。(和歌山県県土整備部長)

→猿谷ダム、池原ダム、風屋ダム以外の8ダムの状況も分析し、どのダムでどのような運用改善を図ることが効果的なのか整理していただきたい。複数の管理者のダムがあるということは、裏返せば能動的に対応できるということと思う。この協議会の中で国がリーダーシップをとって対応いただきたい。(奈良県土木部長)

→今年度の試行運用を通じて効果やさまざまな課題が出てくると思われるので、その中で検討していきたい。(電源開発(株)西日本支店長)

→和歌山県内河川の殿山ダム等については、先月の台風4号でも一定の効果あげており、運用改善について引き続き検証を行っていききたい。(関西電力(株)土木建築室長)

→ダムの運用の改善については技術検討会の場において検討を進めていただきたい。(【会長】近畿地方整備局河川部長)

(3) 河川事業の実施状況について

・紀南河川国道事務所より資料4-1について、紀南河川国道事務所、三重県、奈良県、和歌山県及び近畿地方整備局河川部より資料4-2について説明。

→(補足説明)九尾ダム上流の坪内地区で堆積が顕著であり、国、県と協力して対策を進めたい。(関西電力(株)土木建築室長)

→激特事業の早期の完了をお願いしたい。(紀宝町長代理)

→昨年台風12号では、坪内地区では大規模な土砂災害が発生し、主要地方道が300mに渡って崩れ村が長期間分断された。奈良県による復旧作業が行われ、関西電力による排土、近畿地方整備局による河道確保と再度災害防止が実施されている。しかしながら、今年台風4号では、200mm程度の降雨で浸水被害が発生しており、河道が狭まっていることが要因ではないかと思われる。冷水地区の土砂崩壊により河道の堰上げが発生しており、河道の確保のため対岸の切り取り作業や土砂の除去等早急な対応をお願いしたい。村としても国、三県、ダム管理者と連携を図り対策に取り組むたい。(天川村長)

→河道断面の確保は最重要事項であり、早急に取り組むたい。(紀伊山地砂防事務所長)

→国、関西電力(株)と引き続き連携を図り進めたい。(奈良県)

→堆砂対策が重要。また上流部にも大規模な法面の崩落箇所が残っている。河道の対策と併せての対策が必要。河道確保は進んでいるが、山崩れは手つかずの状態であり、一体的に進める必要がある。堆積土砂の搬出先が懸案であり、指導をいただきながら進めたい。(十津川村長)

→川の中の対策を各機関で分担して進めるとともに、降雨により崩壊地の土砂が新たに川に入ってくるということもあるので各県の砂防部局とも連携を図って対応していただきたい。(【会長】近畿地方整備局河川部長)

→平成23年台風12号では非常に大きな災害を受けた。今年、台風4号でもかなりの水位上昇が見られ、台風12号の堆積土砂による河床の上昇が影響していると思われる。特に下流20kmの堆砂が顕著である。本格的な台風期を前に安心できない。熊野川は国、県が管理し、関西電力、電源開発のダムがあるなど、管理が難しい。今回のような協議会の場は非常にありがたい。ぜひ、地域住民が安心できるよう河床整備(掘削)を早急をお願いしたい。(新宮市長代理)

→堆積土砂が一番の課題であり、資料4-2の5頁のまとめの内容が重要。対応はスピード感が大事であるとともに、随時地元への情報提供をお願いしたい。(田辺市長)

→各地の堆積土砂のデータについて各機関の情報を併せて総合的な分析を行えないか。また、上流部には災害対策として対応できていない崩落斜面があり、今後、川の中の土砂を含めて全体像の検討まで対応していけたらよい。(奈良県土木部長)

→ぜひ情報を集約して整理していききたい。(【会長】近畿地方整備局河川部長)

(4) 河道閉塞対応の実施状況について

- ・紀伊山地砂防事務所より資料－5について説明。

→宇井の崩落土砂は赤谷に搬出することとなっているが、仮置きだと理解しており、恒久策として搬出先を決めなければならない。市としても協力していく。(五條市長)

→現在進めている工事の中で更に土砂が出てくるので、早急に対応していきたい。(紀伊山地砂防事務所長)

3) 今後の協議会の進め方について

- ・事務局より資料－6について説明